

# 令和元年度 道央ブロックアカデミー①

報告者 矢野 宏和

日 時：令和元年 7 月 31 日（水）8：00～17：00

会 場：とわの森三愛高校（人工芝）

大 会：オバラカップ（2種）70分 35-5-35

担当 INS：矢野宏和 靱山智哉

参加者：4名 猿田凌久 3級（岩見沢東 3年） 猿田悠真 4級（岩見沢緑陵 2年）  
浅田希未 4級（岩見沢緑陵 1年） 佐々木陽大 4級（北広島 1年）

## 研修内容

1. 実技（主審を経験する）
2. INSによる振り返り。
3. 講義（審判打ち合わせ・アドバンテージ）

第1回道央ブロックアカデミーを7/31に開催いたしました、参加者は4名でした。

今回は3級の猿田凌久（2019後期2級受験予定）を除き主審の経験がほとんど無いことから具体的な実技の研修内容を設定せず、まずは笛を持ってピッチに主審として立つことを優先して開催いたしました。

8：15 ピッチインスの行い方。

実際にピッチを周り、ピッチインスの行い方を全員で確認。

9：00～実技(主審)

70分の2種の試合、主審経験の無いまま大谷室蘭や東海といった全道大会常連校同士のゲームであったので、猿田3級を除く3名には矢野INS、靱山INSが同じピッチに入りシャドートレーニングという形で行いました、チームのご理解もあり判定やポジショニングをサポートしながらまず1つの判定を自己の判断で行うことを目標に実施。



大会のレベルが主審経験の少ない3名には厳しいと思いましたが、3名とも堂々とピッチに入り、判定やシグナル、展開を追う等事前にINSに指導された事、まず自分が出来る事に関して自信をもってできた事は審判に対する意識が変わったと思います。普段競技者としてピッチに立った目線とは違う角度からサッカーを見ることができた、そのような声も出ました。

ゲームの質が高い中でもシャドーの声に耳を傾け、しっかり判定を行っておりました、心配してダッシュしたシャドーINSよりも冷静にオフサイドの判定をしていた研修生もいたほどでした。

3年唯一3級の猿田凌久に関しては経験もあり、このレベルの主審が出来ることをチャンスと捉え、PA付近の判定をしっかりとするためのポジショニング、動き出しにこだわりを持ってゲームに入り、反省点や課題に関し靱山INSと長い時間振り返りを行いました、普段は空知地区のINSや先輩審判員にアセスメントしていただいている中、強化指定審判員である靱山氏との振り返りは、猿田君にとって目標とする2級へ大きく前進できた時間であったと思います。

講 義：15：00～16：45

### 審判打ち合わせ

3名中1名は主審経験が多いものの実際に打ち合わせの経験が少なく、他の3名についても全く経験がありませんでしたので、審判員が何故事前に会場に入り、試合開始まで何を行うべきなのか、どのような準備が必要か、また審判団としてベストを尽くすにはどのような打ち合わせが必要かを矢野INSがプレゼンテーションを行い、靱山INSが補足する連携で講義を行いました、内容については主審として、副審、4審にお願いする事項、その打ち合わせが何故必要かをルール改正を交え講義。

### アドバンテージ

アドバンテージに関しては、その意味を学んでもらうことを目的とし講義いたしました、実際に行えるのはまだまだ先ではありますが、今後競技者としてだけではなく、審判員としてもサッカーに関わっていく一つの引きだしとして競技規則を覚えてもらい今後の活動に役立てて頂きたいと思います。

### 総 括

今回の目的であった(主審)としてピッチに立ち判定するという経験が参加者全員でできました、また貴重な経験の場を提供できたことは大変うれしく思います、しかしながら大会のレベルが高いためタフゲーム展開となり判定が難しい場面も多々ありましたので、今後主審経験を目的とするならば、4種や3種の試合をお借りすべきであったと反省もごさいます、そのような中でも参加者全員が主審を経験できた事は大きな収穫であったと感じております。

準備が出来ていない中参加していただいた研修生、靱山INSには大変感謝し、第2回の開催も含め私自身も人に教える事の難しさを痛感しながら貴重な経験をさせて頂きました。

ありがとうございました。



# 令和元年度 道央ブロックアカデミー②

報告者 矢野 宏和

日 時：2019 9/28～29

会 場：岡山スポーツフィールド（天然芝）

大会名：キャノンガールズエイト

担当 INS 矢野宏和（SI2） 靱山智哉（SI3）

参加者 猿田凌久（3級） 佐藤拓真（3級） 大村美詩（2級）  
他ガールズエイト帯同審判員（女子 3.4級）

## 研修内容

1. 8人制サッカー1人審判及び予備審
2. INSによる振返り
3. 講義（公正・公平）靱山 INS

第2回道央ブロックアカデミーはキャノンガールズエイトで、空知協会主催の女子審判員研修会との共同開催となりました。

集合 8：00 自己紹介と大会要項確認

## 8：30 ピッチインスペクション

8人制サッカー競技の大きさや使用するゴールの規格などを確認。



## 9：30～15：00 審判実技

1人審判法についての注意事項、普段セオリーである対角線審判法とは違い反対サイドにも行く必要性、副審のサポートが無い分、予測が大事、狭いピッチの中で巻き込まれずにどのように動くかを考える。

副審はいないが予備審がどこまでサポートできるのか？打ち合わせが大事、センターライン付近のオフサイド、予備審側のタッチジャッジ等、最低限度サポートすることで主審の見る範囲が変わってくる。



### 17:00~18:00 講義 公正・公平

小樽地区靱山インストラクターより審判員に求められる公正と公平とはどのような事を示すのか、またそれを実行するには何が必要かを講義していただきました、ユース審判員にわかりやすくまとめたプレゼンを実施していただきました。



### 9/29 プラクティカルトレーニング

#### オフサイドの見え方

9/29 実技に入る前に空知協会川合祐介 INS に協力していただきプラクティカルトレーニングを行いました、自分が見て判定した事象が実際にあったかを含め映像で確認しました。



### 総括

11人制では4名いる審判団が8人制では2名、二人の協力がより必要になってくる事を学ぶことができる場となりました、また他地区審判員との交流もでき共同開催で空知トレセンの場を借りるという形ではありましたが、多くの審判員が意見交換や同じピッチに立ち、良い経験の場になったと思います。

## 令和元年度 道央ブロックアカデミー③

報告者 矢野 宏和

開催日：2019/10/13(土) サンク FC くりやま主催 U-14 交流大会 50 分ゲーム

会場：くりやま富士運動広場（天然芝）

担当 INS：矢野宏和（SI 2） 川合審判長

参加ユース審判員：犬飼 陸斗（4 級・岩見沢農業 2 年）保坂宗志郎（4 級・岩見沢農業 1 年）  
女子審判員：諸岡 紬（空知トレセン）

研修内容： 主審・副審 実技 振り返り。



### 審判実技

25 分ハーフの短いゲームでしたが普段主審の経験がないユース審判員の主審の経験の場となりました、空知トレセン（女子）もこの試合を研修の場としていましたのでインストラクター全員で一人一人と振り返りを行いました。

普段は大人が主審でその副審や 4 審を担当することはあるが、自らが判定する難しさを学んだという意見もでておりました、このような経験を活かして、少しでも審判員という立場に理解と興味をしめしてもらいたいと思います。

公式戦ではありませんでしたので、前後半で主審を交代し、外からの見え方、動き方の振り返りを行い、最後に全体的な振り返りをプレハブ内にて行いました。

時間の都合上講義は出来ませんでした、空知地区審判トレセンの協力もあり 3 回目を開催することが出来ました。